

高血圧・糖尿病・脂質異常症・慢性腎臓病治療中の人は 毎年NT-proBNP検査を受けてほしい！



↑↑↑
ホームページには
健康情報が
盛りだくさん！



◆心臓への負担が大きい＝心不全のリスクが高い！

高血圧・糖尿病
・脂質異常症

いずれも動脈硬化を進行させ、心臓に大きな負担をかけます。加えて、高血圧は心肥大を、糖尿病は糖尿病性心筋症を引き起こし、心臓のポンプ機能を低下させることがあります。

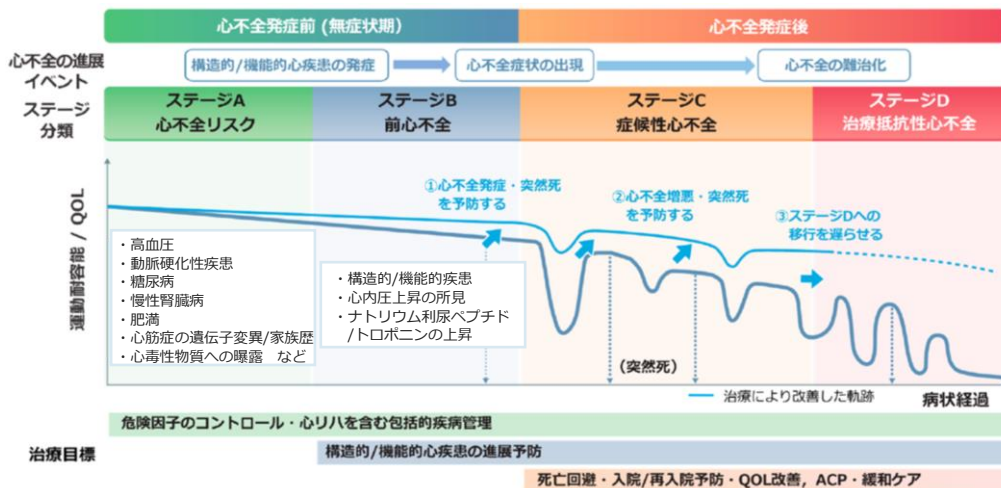
慢性腎臓病

腎臓には、レニン-アンジオテンシン系(RA系)という血圧を上げるホルモンの仕組みがあり、腎臓の機能が低下したり、腎臓へ流れる血液が減るとこのRA系が過剰に働き高血圧を招きます。また、腎性貧血は心筋の酸素不足を引き起こし、心臓への負担が増加します。

◆心不全とは？

心臓のポンプ機能が低下し、全身に十分な量の血液を送り出すことができなくなった状態が心不全です。全身の血液の流れが悪くなり、息切れやむくみ・体重増加などが起こりますが、初期は無症状のため、気が付いた時には進行していることが多く注意が必要です。

【心不全の進行のイメージ】



高血圧・糖尿病・脂質異常症・慢性腎臓病治療中の人は、心不全リスクが高いステージAに該当します！



出典：『心不全診療ガイドライン』
2025年改訂版

◆早期発見に役立つ『BNP』と『NT-proBNP』

BNPとNT-proBNPは、どちらも心臓が負荷を受けた際に心臓(心室)から分泌されるホルモンの一種で、数値が高くなるほど心不全の可能性が高くなります。心不全を軽度の段階から反映するため、その早期発見や予防に有用であり、心不全のリスクがある人におすすめの検査です。

【BNP/NT-proBNP値を用いた心不全診断】



NT-proBNPは採血で実施できる検査です。当協会健康診断を受ける際にオプション検査として追加していただけますので、ぜひご相談ください！

◆毎年NT-proBNP検査を受けて心臓のSOSをキャッチ！

心不全と診断された人の5年生存率は約50%と予後が良くないことが知られており、早期より心不全を予防することが重要です。心不全のリスクが高い高血圧や糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病の治療を行っている人は、年に1回NT-proBNPを測定して心臓の状態をチェックすることをおすすめします。

日常生活
の注意点

塩分を控える …塩分をとりすぎると、体の中に水分をため込みやすくなり心臓に負担がかかります。
日々の体調管理 …急激な体重の増加(1週間に2~3kg)は心不全のサインかもしれません。
血圧や体重を毎日チェックし、身体の変化を見逃さないようにしましょう。